広範囲にわたる評論活動を展開していったのである．

とりあげた人・物・事件・国などの対象に対する，

・理解の仕方
・交渉の仕方
・対策のたて方

が実にたくみで味がある．

混迷する世界に生きる現代人にとって，玄白の言や玄白の手法にヒントを得られる点は少なくないと確信している．

記念出版の『杉田玄白評論集』（2017年6月刊．勉誠出版）の内容は次の通りである．

一　杉田玄白評論
　原文覆刻に当たっての凡例
　一　鶴亀の夢（学者仲間や世人に対する鋭い風刺）
　二　玉味噌（たまみそ）（玄白晩年の自慢話）
　三　野叟独語（やそうどくご）（対ロシアを意識した海防策）
　四　犬解嘲（けんかいちょう）（医者の社会的立ち位置を示した評論）
　五　蠏穴談（かいけつだん）（社会経済・社会風俗批判）
　六　耄耋独語（ぼうてつどくご）（玄白老境の日常）
二　解題
　一　鶴亀の夢
　二　玉味噌
　三　野叟独語
　四　犬解嘲
　五　蠏穴談
　六　耄耋独語
附録
　一　杉田玄白と長崎屋
　　――その，狙いと行動――
　二　杉田玄白と海外情報
　三　河口家と杉田玄白
　四　古希の玄白，歩いて，歩いて
　参考文献
　あとがきにかえて

特に作品「蠏穴談」は初公開である．6作品には，現代語訳と原文，解題が収載されている．

（平成29年10月例会）

# シーボルト事件で罰せられた三通詞

片桐　一男

止まるところを知らないシーボルトとシーボルト事件に関する著書と論稿が続いている．シーボルトが帰国に際して引きおこしたシーボルト事件の本質は何か．「天文方地図一条」と伝わっている（片桐一男『阿蘭陀宿海老屋の研究』）．

長崎で検挙された者のなかに，多くの阿蘭陀通詞が含まれていた．日本語に不自由なシーボルトが，いかに通詞を頼りにしていたかがわかる．なかでも重罪人として江戸の町奉行に引き渡され，吟味のうえ，現今の終身禁固刑に処せられたのが，

大通詞　　馬場為八郎
小通詞並　吉雄忠次郎
稽古通詞　稲部市五郎

の三通詞であった．最も遠い地に預けられたのが馬場為八郎で，公儀から厳しい管理指示を受けていたにもかかわらず，三年を経て，亀田藩の岩城隆喜は，

・城下最上町の妙慶寺の裏手，水汲みに来た村民の談笑で賑わう井戸の傍に小宅を建て，
・そこに馬場為八郎を移し，
・城下諸氏との自由な交際を許し，
・腰縄も付けずに城下の往来を認め，
・ときには，城下鶴が沢の温泉へ入湯も許した．
・為八郎に与えられた小宅には，異国噺を聞きにくる人びとで賑わっていたという．

・為八郎が土地の人にオランダ語を教示した（後述する「長崎譯官馬場為八郎書」参照．松村英精にオランダ語を教示した．長善館に松村文庫として伝わるものがある）．
・町で鍼医を生業とする青年和田杉雪（三折とも）に，為八郎は，オランダ語と蘭方医学を教え，蘭方医に育てあげたと伝えられている．
・為八郎が藩医に蘭方医学を教示した（上池館，藩営医学校の学生に，遺品にも符号するものがみられる）．
・秘伝の目薬を吉田家に教示した．
・土地の人々に，製糖法，製薬法，製麺法（亀田うどん）を教えた．

現在，次のような遺品が伝存されている．

(1) 岩城歴史民俗資料館の馬場為八郎遺品
1 「長崎譯官馬場為八郎書」一綴
2 醤油瓶　JAPANSCH ZOYA
3 酒瓶　JAPANSCH ZAKY
4 金彩水指（寄託資料）
5 コップ（寄託資料）

(2) 妙慶寺宝物殿の馬場為八郎遺品
1 文机　一基
2 腊葉貼付の一紙
3 馬場為八郎肖像・サイン・印（一紙四ツ折）
4 書見台　一基
5 オランダ語格言（一紙文書額入）
6 馬場為八郎・佐十郎所縁の一軸（旭に梅）

更に妙慶寺境内には馬場為八郎先生碑がある．

為八郎は，天保9年（1838）10月19日病没した．70歳であった．

三通詞のなかで，最も遠い地に預けられ，長命を全うした大通詞馬場為八郎に代表されることであったが，

・終いの住処（すみか）となった地へ，予想もしない大荷物を持っていっていたのである．
・その地に大きな知的影響を及ぼしていたのである．

右の発見は大きな驚きであった．

大荷物には重い蘭書や書類，毀れやすい舶載のガラス製品まで含まれていた．重罪人が配流地へ携行できる荷物をはるかに超えたものである．官憲が見逃したことになる．幕府が見逃したことになる．これは，一体，何を意味するものであるか．

そもそも，こんな大荷物を重罪人の馬場為八郎が官に携行を願い出たのか．それとも，幕府がすすめて携行させたものか．それとも，ほかに理由があるのか．詳しい経過や，事情は未詳である．永遠に不明なことかもしれない．

いずれにしても，幕府が見逃したことには違いない．すでに考察してみたことではあるが，当代きっての海外世界の知識に明るい，阿蘭陀通詞の蘭学知識・技術を幕府が惜しむ気持ちの大きかったことを意味していると気付かされた．当代の，置かれた時代と社会とにおいて，幕府が「蘭学」を認めたのである．三通詞の足跡追及を通じて得られた最大の収穫であった．近世史を考え直す契機にしたい，とも思った．

維新後，富岡の医師会に人を得て，三通詞は恩赦を受けていたことが確認されていた．そのことも，また忘れられていた．

重罪人に処した大通詞馬場為八郎を配流地に護送するに際し，おびただしい荷物の携行が見逃がされた．幕府によるこの黙認は何を意味するか．為八郎が身に付けた蘭学知識・技術を惜しむ力が働いたのである．それは，幕府が暗暗裡に世の中が「蘭学」を必要としていることを認めたことを意味する．世界の進運の真っ只中に船出した明治の新政府も，逸速く恩赦を与えていた．阿蘭陀通詞や蘭学者が身に付けた世界知識や新技術を新時代が必要としていると認めたからである．

今後は，三通詞が連座した罪を問うよりは，三通詞の実力，功業をこそ顕在化しておく必要があるか，と痛感した次第である．

そこで，今後，研究の資になればと思い，入手しにくい関係史料の解読・公開も試みた次第である．意のあるところを汲んでいただき，通詞研究を推進していただけたら，著者望外の喜びとするところである．

〈付記〉持ち時間の都合で，馬場為八郎の報告で終った．吉雄忠次郎，稲部市五郎については，『シーボルト事件で罰せられた三通詞』（片桐一

男著，勉誠出版，2017年刊）に譲る．同書には，入手しにくい関係史料の解読・公開も試みてある．参看いただけると有難い．

（平成29年12月六史学会合同例会）

# シソの古典的記述から

伊藤美千穂

シソは蘇葉として古来より日本でも慣れ親しんできた生薬である．葉が緑色のいわゆる大葉タイプと表裏両面が赤紫色の赤紫蘇，向軸側が緑色で背軸側が赤紫色の片面ジソがあるが，薬用にするのは赤紫蘇か片面ジソである．医薬品として蘇葉を取り扱う際には，形態的特徴に加えて精油にペリルアルデヒドというシソ特有の成分を十分量含んでいることが必要で，これらの特徴を確認することで生薬としての品質と安全性を確保している（日本薬局方参照）．

生薬としての蘇葉は半夏厚朴湯，参蘇飲，香蘇散，神秘湯，柴朴湯等の漢方処方に配合される．これら漢方処方の出典はそれぞれ金櫃要略，和剤局方，下台秘要などであり，最も古い出典は金櫃要略であるものの，生薬各論としての蘇葉は神農本草経には記述が無く，これより少し後の時代に書かれたとされる名医別録の中にあるものが最も古い記述のようである．

神農本草経以降の本草書を網羅的に集約して明の時代に編纂された本草綱目は，生薬についての古典の記述を調べる時に最も参考にしやすいものの一つである．この本草綱目の記述によれば，シソは「蘇」として書かれており，別名は紫蘇や赤蘇で，舒暢（ジョチョウ：心をのびのびさせる）作用や行気和血（気を廻らせ，血を和ませる）作用が期待できる生薬とされ，紫蘇と白蘇は別なものであり，蘇は荏（エゴマ）の仲間であるが味は荏より辛く，桂（桂皮）のようである，などとされている．さらに，葉の下面が紫色でなく，香りがよくなく，エゴマに似たものは野蘇といい，薬用にはできない，薬用には葉の両面が紫色のものが良い，等とも書かれている．

これらの古典の記述は，これまで筆者がシソについて行ってきた様々な実験結果とよく符合する．すなわち，シソ属植物には食用，薬用にする栽培種と，これと染色体数の異なる3種類の野生種があるが，蘇葉の香りであるペリルアルデヒドを含むものは栽培種のシソのみに見出され，いずれの野生種にも存在しない．また，葉の両面が赤紫色のものは栽培種のシソにしか存在しない．さらにマウスを用いた生薬薬理学的研究からは，ペリルアルデヒドを含む蘇葉の精油画分は，ごく薄い濃度で吸入投与（呼吸の吸気とともににおいとして体内に入る）すると，マウスの運動量が減っておとなしくなり，また抗不安効果や抗うつ効果もあることから，いわゆるリラックスと表現される効果，古典の記述で言えば舒暢作用があるのではないか，と考察されたのである．

生薬は長年の経験，試行錯誤の上に選ばれ，使われ続けてきた医薬品である．科学未発達の時代の試行錯誤の成果を，現代科学の実験データやエビデンスで裏付けることができれば，伝統薬，伝統医学の利用推進にうまく繋がっていくのではないか，そういう期待感も持っていただける例になれば，という思いもあり，話題提供させていただいた．シソについての様々な研究は筆者が大学院生の時から取り組んでいるもので，もうかれこれ25年以上続けていることになるが，まだまだ継続中であり，今後もさらに掘り下げ，また広げてゆきたいと考えている．

（平成29年12月六史学会合同例会）